

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 B棟)

事業所番号	0692600018		
法人名	株式会社 三友医療		
事業所名	グループホーム三友たかはた		
所在地	山形県東置賜郡高畠町大字高畠1181-3		
自己評価作成日	令和 2年 12月 24日	開設年月日	平成 22年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に季節感を味わって頂ける様な行事を企画し、行っています。今年は新型コロナ感染予防の為、いつものように地域の方やご家族様には参加頂けなかったのが、とても残念です。外出もなかなか出来なかったのですが、施設の周りを散歩したり、体を動かして頂きたく、大運動会も行いました。壁飾りや千羽鶴をご利用者様と一緒に作り、綺麗に飾っています。玄関や廊下には、写真を飾りご利用者様に見て頂ける様にしています。ご利用者様に寄り添い、笑顔を引き出し毎日を穏やかに過ごして頂ける様に心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 1月 20日	評価結果決定日	令和 3年 2月 8日

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念・運営理念を朝礼で唱和してる。「思いやりと笑顔の中で」の理念の元にご利用者様に寄り添う支援に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の個人商店様から食材やお菓子などを購入している。ラーメン店から出前をとる事もある。施設イベントには地域ボランティア様の参加をお願いしているが今年はコロナ禍で出来てはいない。裏の畑の持ち主様から度々野菜を頂いている。運営委員会には地域の方も参加される。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ感染予防の為、地域貢献に活かせていなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染予防の為、運営推進会議を開催する事が出来なかった。文書で近況報告を行い、疑問点等があればご連絡頂くようにお知らせした。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村からはメールで情報頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関は施錠してはいないが、直ぐ道路の為センサーを設置し、職員が見守るようにしている。身体拘束については社内研修を行い、理解を深めている。近況報告にも、現状をお知らせしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で学習し、ケア会議等でも話し合い虐待防止(特に言葉)に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	計画作成員等の職員が養成講座を履修している。全職員が活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書・重要事項説明書の読み合わせをし、説明をしている。特に、入居・退所時の注意点は詳しくお話をしている。ご利用者様やご家族の心配点を聞き取り、不安なく入居して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの意見・要望などには傾聴し都度対応している。ご家族の面会時には積極的に要望などを伺い改善し全職員が周知徹底している。また、担当者会議で定期的に確認している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員に問いかけし、コミュニケーションを図っている。月1回のケア会議には、代表者も出席し、意見を出せる場を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を行い、面談をしている。提案等は都度聞き、反映出来る様に努めている。委員会の活動で個人の力が発揮出来、向上していける環境を作っている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら、初任者研修・実践者研修を受けられるように、シフトを組んでいる。月に2回(同じ内容)社内研修を実施し、全職員が参加できるような体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流する機会はほとんどないが、法人グループ内の他事業所との会議を通して向上に繋げている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人とご家族に面談し、生活状況や要望・不安な点を話し合い、安心感を持って頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に面談し、要望や不安な等々を聞き、どのような対応、方法があるか事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の希望や何を必要としているかを見極め、その時に必要なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が尊厳という気持ちを持ち、穏やかに過ごせる環境・雰囲気作りを行っている。ご利用者様に出来ることはお願いし、協力しながら過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご利用者様の日々の様子などをお話している。受診時等の付き添いも出来る範囲でご協力をお願いしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい場所やお会いしたい方等お聞きしている。できる限りご要望に応える努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんでお話する機会作りや、話題提供を行っている。気の合った方同士で過ごせる席位置等を考慮している。レク活動に参加して頂き、孤立しないように職員が声掛けし見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方・ご家族にもいつでも立ち寄って頂けるように、声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴介助時や空いた時間にご本人の思いを聴き出し、思いや希望を把握するように努めている。ケア記録に記入し、ケア会議で話し合い全職員が共有して支援に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談で、生活歴についてお聞きしている。日々の関わりの中でお聞きしたり、ご家族からも出来る限りお話を伺い、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活リズムを把握し、その方にあった生活が出来るように努めている。出来ることを見つけて、その力を引き出せるようにケア会議等で話し合い意見を出し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーが日々、本人やご家族の思いや意向を職員から聞き取り、現行プランの評価、検討をしている。ケア会議で全職員と意見交換し、プランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の言動を記録し、気が付いた点を職員同士話し合い、実践や計画に活かしている。ケア会議で、共有しより深く話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>新型コロナ感染予防の為、地域の行事参加等が出来なかった。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は利用者様の希望を継続している。かかりつけ医の往診もあり、受診報告書で状況を伝え、結果を記入、共有し、ご利用者様の健康維持に努めている。受診には、職員又はご家族にも協力して頂いている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員の配置が無い為、気付いたことや変化があれば直接かかりつけ医に伝え、指示を受けている。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>町内の病院の場合、週1回は面会に伺い、担当の看護師より病状等の説明を受けている。退院に向けての話し合いや留意点等、詳しく説明を受けている</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重症化した場合、事業所側で対応できるケアを改めて説明して、ご家族様の理解を得ている。早い時期に終末期のあり方の希望をお聞きし、病状の回復が見込めない時に再度、医師・ご家族と話し合い、看取りについて確認し、医療連携で職員も協力し合い支援をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来るだけ全職員が救急講習を受けるようにしている。ケア品質会議で作成した、急変時マニュアルを活用している。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練(夜間想定を含む)を全職員・ご利用者様参加で行っている。近隣の方にはご協力の依頼をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、ご利用者様の尊厳を守り、プライバシーに配慮している。言葉使いや態度はケア会議等でも話をしている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりから、思いや希望を聴きだすよう努めている。選択枠を準備し、ご利用者様が自己選択・自己決定できるように心掛けている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、ご利用者様のペースやライフスタイルに合わせ、体調をみながら柔軟に対応するように努めている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えはご本人に決めてもらっている。男性の方は声掛けによりご自分で髭剃りをされている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	宅配業者の骨抜き魚やカロリーや栄養バランスを考慮した献立となっている。地域の方からの差し入れ野菜や手作り行事食、毎週夜1食の職員の手作り食を楽しみにされている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が把握できる様に、食事量・水分量のチェック表を活用している。生活習慣や身体機能に合わせて、形態を変えて提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を全職員が認識しており、一人一人の状態に合わせた口腔洗浄・義歯洗浄の声掛け、ケアを行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者様の様子を見ながら声掛けをし、トイレで排泄出来るよう誘導している。トイレの前で待つ等の羞恥心への配慮に努めている。			
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のお茶の時間に、ヨーグルトを提供し、水分摂取の声掛けを行っている。体を動かして頂くよう、歩行訓練や、リハビリ・タオル体操(毎日)を行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回を基本としているが、要望があれば対応できるように努めている。転倒防止に配慮し、1対1の介助でサポートしている。ゆっくり入浴して頂けるように見守りし、ゆったりとした時間を楽しんで頂いている。			
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	表情や体調を見ながら、日中活動する場面を増やす工夫をしている。生活リズムが整うようにし、夜間ゆっくりと安眠出来るように努めている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の薬の説明書を活用して確認し、理解している。変化があれば、主治医に相談をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見つけて、発揮して頂ける場を考案している。職員は感謝の気持ちを伝えている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望により自宅まで、職員やご家族とドライブしたりしている。新型コロナ感染予防の為、外出行事が行われなかった。			
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時にご家族に金銭所持の件を確認している。希望があれば、お金を所持し使えるように支援している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話ができる様にしてあり、対応できるようにしている。手紙についても本人が出来ないところはお手伝いしながら、やり取りができる様に支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、行事の際の写真を掲示したり、ご利用者様の作品を飾っている。整理整頓を心掛け、季節が感じられるお花や装飾をし、ご利用者様がくつろげる場を提供している。共有スペースの玄関前のホールは中庭を眺めながら一息つける場となっている。			
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前の椅子やソファで気の合う方と話をしたり、お一人でゆっくり過ごせるスペースを作っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に居室に使い慣れた物を持って来て頂くようお話している。ご利用様が落ち着いて、安心して過ごせる居室になるよう、ご家族とも相談し、協力を得ながら行っている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関、トイレ、廊下、浴室、脱衣所に手摺を設置し、安全確保、自立支援を行っている。居室内は同線が確保できるように、整理整頓を行い、転倒防止にも努めている。</p>	/	/